

令和6年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日 時 令和7年1月30日（木）15:00～16:10

場 所 事務局第一会議室及びMicrosoft Teams 併用

出席者 [会議室] 坂井学長、石井理事、野中理事、木崎理事、中村理事、市川理事
利根委員、平本委員、真下委員、山名委員

[Teams] 堀光委員、山口委員

欠席者 萩原委員、吉田委員

陪席者 [会議室] 小俣監事、山中監事、長澤副学長

[Teams] 市橋副学長、田代副学長、伊藤副学長、水村人文社会科学研究科長、
宮田教養学部長、井原経済学部長、戸部教育学部長、重原理工学研究科長、
若狭理学部長、奥井工学部長

○ 学長から、萩原委員、吉田委員が本会議を欠席する旨報告があった。

○ 令和6年度第3回議事要録の確認について（資料1）

令和6年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

※各事項における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

○ 審議事項

1 令和7年度予算編成方針について

木崎理事から、資料2に基づき、令和7年度予算編成方針（案）について説明があり、審議の結果、承認された。

2 令和6年度学内補正予算について

木崎理事から、資料3に基づき、令和6年度第2次学内補正予算（案）の概要について説明があり、審議の結果、承認された。

3 資産の有効活用（教職員宿舍の廃止）について

木崎理事から、資料4に基づき、資産の有効活用の一環として検討を進めている教職員宿舍の廃止について説明があり、審議の結果、承認された。

☆ 廃止後の跡地については、売却せず、賃貸物件等として賃料収入を得るということか。

△ 売却を行うと、得た収入の2分の1を国に返納しなければならないため、例えば

定期借地契約を結び、長期的に安定した収入を得ることを考えている。跡地利用については、今後、施設環境マネジメント委員会において検討を進める予定である。

○ 報告事項

1 令和5事業年度における剰余金の繰越承認について

木崎理事から、資料5に基づき、令和5事業年度における剰余金の繰越承認について報告があった。

2 令和7年度予算の内示について

木崎理事から、資料6に基づき、文部科学省における令和7年度国立大学関係予算案及び本学への令和7年度予算内示について報告があった。

△ 本学の令和7年度運営費交付金予算額は、前年比で大幅に減少しているが、これは特殊要因運営費交付金の減によるものである。一方、業務に係る経常予算は前年比で微増しており、業務運営上の支障はない。

△ 説明のとおり、経常予算としては前年度と同水準であるものの、物価高騰や人件費の上昇もあり、依然として予算のやりくりは厳しい状況にある。

3 令和6年度外部評価報告書について

長澤副学長から、資料7に基づき、外部評価委員会から提出された令和6年度外部評価報告書について報告があった。

☆ 「教育に関する事項」の特筆すべき点として、「知事と学生の意見交換会」が長年にわたり継続的に実施されていることが高く評価されたことを嬉しく思う。知事が代替わりしても制度として続いていることは喜ばしく、今後も引き続き実施していきたい。また、外部評価委員からの意見として、知事が推進する「ジェンダー主流化」についても言及があった。貴学でも極めて先進的な取り組みが進められており、その側面でのコラボレーションについて提案がなされている。さらに、この他にも埼玉県が関わる取組として、「研究に関する事項」の特筆すべき点では、国内で唯一埼玉に自生する食虫植物ムジナモの研究についても言及があるが、これもネイチャーポジティブ（自然再興）の分野で知事が取り組んでいるものである。このように、一緒に進められる取組があれば、前向きに検討していきたい。

△ 「知事と学生の意見交換会」は、学生にとっても非常に良い経験となっている。特に、提言が県の政策として実現することで、生きた教育になっている。今後も本事業を発展させていきたいと考えており、ぜひご協力をお願いしたい。外部評価委員会から「遅れている点」として指摘された事項については、適切に対応していく。加えて、提言等をいただいている事項についても、真摯に取り組んでいきたい。

○ その他

1 統合報告書2024について

学長から、統合報告書2024について説明があり、種々意見交換が行われた。

☆ 統合報告書の25ページには、甲信・北関東地域の連携によるスタートアップ創出プラットフォームの記事がある。このように、学生や関係者が読んだ際にワクワクするような内容に仕立てていくことが重要だと考える。同事業に関連して、埼玉県も今年の夏にさいたま新都心にイノベーション創出の拠点として「渋沢 MIX」という施設を開設する予定であり、起業家や投資家等が交流する実践の場を作りたいと考えている。こうした場に、研究者や学生等、大学関係者の方にも足を運んでいただければ、より生きた取組となるのではないかと思う。今後、実践的な話題を提供できるようお互いに協力させていただきたい。また、埼玉県では、「彩の国ビジネスアリーナ」という企業の交流イベントにも取り組んでおり、先日、埼玉大学の方にも参加していただき、実際に企業の方と意見交換をしていただいた。このように、企業の方と話す機会が増えることで関係が深まり、よりワクワク感のある取組に発展していくのではないか。

△ 「渋沢 MIX」については我々も注目している。最近ではスタートアップや起業を考えている学生も増えており、ぜひ何らかの形でコラボレーションさせていただきたい。

☆ 個別の視点からお話すると、私立学校の学校案内においては、訴求対象として保護者と受験生を想定し、受験生にはビジュアルを、保護者に対しては数字でアピールすることを意識している。統合報告書の15ページに「数字で見る埼玉大学」の記事があり、非常に真面目にすべての数字が記載されている。例えば、大学として注力している数字を強調することや学長と卒業生の対談記事内でも具体的な数字を示すことで、より訴求力が増すのではないかと考える。

△ 保護者や高校生にとっても数字は非常に重要な観点であるため、ご意見を踏まえ改善していきたい。

2 次回日程（令和7年3月27日（木））

学長から、次回日程の開催時刻については、改めて各委員のご都合を伺いたい旨の連絡があった。

以上